

# 冬



年末にかけて忙しい季節です。

後半になると初雪もちらほら見られます。手袋とマフラー、湯たんぽの暖かさが身にしみる、乾燥の季節と答えた女性が多くなりました。

「冬だけど、ちっとも寒くないの」

「冬物をあまり着なくなりました」

という声も多くあり、季節感が

失われている気配もありました。

あなたはいつ冬の訪れを感じますか。

その感覚はあなたの宝物です。

斧入れて 香におどろくや 冬木立 与謝無村(俳人)

モノサシ訳

冬枯れた木立に入って、斧で木を切ったら、なんと木の香りが

ふわーっと漂って驚いたよ。枯れているように見えても、

中身はちゃんと生きているんだなあ。

「クリスマスソングが流れてくる」「イルミネーション」  
「クリスマスの飾りを考えるとき」「さんのプレゼント」

「門松を作る」「おせち料理を作る」「正月飾りを見かける」  
「餅つき」「正月の曲がかかる」

「オリオン座舞い立つ」「クリアな青い空」  
「飛行機雲」「夜の星空が美しい」

「柿の葉が落ちる」「ごぶしのつぼみ」「ツワブキの花」「ピワの花」

「干し芋を作る」「干し柿を作る」「干し大根を吊るす」

「吐息が白くなったとき」「薄着で外に出るのが辛くなったとき」  
「朝起きられなくなる」「氷が張る」

「ストーブの上のやかんの湯気」「ストーブの燃える匂い」  
「灯油の移動販売の車の音楽」

「あなたのキーワードは？」

静寂と安らぎに就く季節 兼松憲一

街角に居て、つむじ風が木枯しの静へと移る。

里山に居て、春を待つ木の芽に生かされモズの一声、林を走る。

奥山に居て、吹雪の歌声が天地に響きわたり、全てが孤独に酔う。

我家に居て、囲炉裏こそはないが、暖かい家族との夕餉ゅうげに酔う。

冬。人は何故か音と光りに敏感になるものだ。犬の遠吠え、ヒタヒタ

と人の足音、朝夕の汽笛、焚火の弾ける音、クツクツとかまどの音、

カサカサと踊る枯れ葉、夜空の星月の透明感、凍つき光る池、雪明

りとランプの灯り、肌寒い朝の空気、朝霧…。

冬。静かに身を置き、詩人となる私の幸せなひととき。

自然からの恵みと暮つしの一体感が心の奥に沁み込んでゆく。

この自然の豊かさを、人々はいかほど探したせるのだろうか。

私の街、今は。